



**感染対策の意味でも
少人数学級を！**
平長木 哲也(日本共産党議員団)



問／新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、20人程度の少人数学級が必要ではないか。

答／市では3密の回避、マスク着用、こまめな手洗い等で感染リスクを低減しながら学校運営を行っている。万一、感染者確認の場合でも感染拡大防止と学習保障を行う考えであり、現在、恒常的な少人数学級が必要とは考えていない。一方、よりきめ細やかな指導と教職員の多忙解消のための少人数学級は、これまでも国や県に対し、継続的に要請している。国も「ポストコロナ期も見据え、少人数指導体制の整備を進める」としており、動向を注視していきたい。

コロナ禍に対応した病院の機能強化を求めよ

問／新型コロナウイルスの感染が拡大する中で、ICUをはじめ感染症患者のための病床確保やスタッフの増員といった新たな視点で各病院の機能強化を国や県に求めるべきではないか。

答／既に7月9日に、県市長会が厚生労働省などに対して要望を行った。概要は、「今回の災害級の有事を教訓とした医療再編・統合等の見直しをすること」「地域の医療体制維持のため、医療従事者の絶対数の確保や偏在是正の施策を講じるとともに、必要な財政支援を講じる」とである。市としても、必要に応じて市長会等を通じて、国に対して要望していきたい。



**関川流域の治水・内水
対策の進捗状況を聞く**
渡邊 隆(無所属)



問／市が策定する雨水管理総合計画「本城町排水区」雨水幹線の整備による高田城址公園周辺の浸水・冠水被害軽減の期待は大きい。排水能力の増加というこの機を捉え、国交省管理の排水ポンプの増設を要望すべきではないか。

答／更なる浸水被害の軽減に向け、今後改めて、市として排水ポンプ増設を国に要望していく。

問／稲田橋から中央橋までの間の土砂堆積による巨大な中洲は増水時ににおいて脅威であり、地域住民は大水害被害を心配している。市の考えはどうか。

答／洪水時の越水の危険性に加え、沿川の排水機能への支障も懸念される。国に働き掛けていく。



現在、撤去工事が着手された

景観に配慮した電線の地中化を

問／中央橋から地域振興局前交差点までの電線地中化の進捗はどうか。

答／北陸地方無電柱化協議会の合意を受け、正式に事業化された。今後、測量結果を踏まえ、電線管理者との設計協議を進めると県から聞いている。



電線が混み合う景観



**コロナ禍における移住
促進を今こそ積極的に**
安田 佳世(無所属)



問／昨今の新型コロナウイルス感染症の影響により、地方回帰や地方への移住について関心が高まっている。テレワークや二拠点生活、ワーケーションなどの新しい働き方や暮らし方をどう捉え、移住促進にいかしていくのか。

答／これまでは地域の担い手不足解消の面が強かったが、人々の考え方の変化の中で、緩やかに柔軟さをもって移住促進を行っていききたい。

問／移住をするためには、そこでの実際の生活をイメージし、その場所で自己実現ができると感じられることが大切だと考える。そのためにも、より一層の情報発信や動画によるPRが必要だと考えるがどうか。

答／情報を受け取る側のことも考え、今後は動画によるPRも含め、情報発信を強化していく。

子どもを中心に考えた教育の推進を

問／平成29年の第2次総合教育プラン策定後、学習指導要領改訂や新型コロナウイルスの影響による急速なICT化、職業観の変化などの状況が見られる。この変化をどう捉え、子どもの育ちや学びのためにどう取り組んでいくのか。

答／日々変化する社会環境下にあっても、教育プランに定めた教育方針や各種施策の方向性はぶれることなく進め、そのために必要な個々の取組は柔軟に見直していく。